

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年2月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670101908
法人名	公益財団法人 慈愛会
事業所名	グループホーム 愛と結の街
所在地	鹿児島県鹿児島市小原町9番28号 (電話) 099-267-0533
自己評価作成日	平成30年1月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①地域との交流～女性学級 消防訓練 町内会加入 実習生受け入れ ボランティアの受け入れ 野菜販売など積極的に行っている
- ②活力ある環境づくり～ウッドデッキや畑を活用して季節の花や野菜を植えている
- ③利用者の状況に応じて、老健のPT OT ST 歯科衛生士など必要時、助言していただき健康の維持に努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は広い敷地内に医療機関や老人保健施設があり、定期的な訪問診療や職員看護師・訪問看護ステーションとの連携が図られ、緊急時の対応などの連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。災害時の協力体制もできている。
- ・町内会に加入し、地域の女性学級や地域サロンにも積極的に参加し、事業所の行事や避難訓練にも多くの地域の人々の参加がある。実習生やボランティアの受け入れなども行い、認知症の相談にも対処するなど日常的に交流している。
- ・法人として内部や外部研修を奨励し、参加に際しては有給の活用や研修費をサポートするなど、職員育成に力を入れている。職員は各自勉強会に積極的に参加し、資格取得や資質向上に取り組んでいる。
- ・利用者が張り合いのある日々を過ごせるように、プランターや畑で野菜を作って調理に使用したり、月2回野菜販売を行って、利用者と職員が一緒に得意分野で力を発揮して喜び合える関係を築いている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念は毎朝の朝礼にて唱和を行い、理念の意識づけを図っている。理念の理解を深め実現していくための努力を日々行っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を玄関及び事務所内に掲示している。理念に基づいて毎年具体的な目標を作成している。朝礼時に唱和し、理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入をして、女性学級にも参加している。また消防訓練の時は地域の方々に参加をしていただいております。グループホームの行事食（ちまき）のおすそ分けなどにて地域の交流ができています。	町内会に加入し、回覧板等で情報を共有している。総会や女性学級などの地域の行事に積極的に参加している。保育園との交流・中学生のサマーボランティア・高校生や看護学生の受け入れなども行っている。認知症の相談にも対処するなど日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の行事に積極的に参加し、また施設内の行事に参加して頂き、交流を通して認知症の方への理解を深める機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催しており、家族や地域の方々の話し合いの場を設けている。その際に出た意見を全職員と共有し、サービス向上に努めている。	会議は定期的に行っている。事業所の状況やヒヤリハットの報告を行い、参加者から多くの助言や提案が出され、そこでの情報が外出レクリエーションの際などに活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者が訪問された際は事業所の様子など伝えている。また協力関係が築けるように情報を発信している。運営推進会議を活用し地域包括支援センターの職員との連携が図れている。	市担当者には、必要に応じて相談や情報を交換して助言を貰っている。運営推進会議を通して協力関係もでき、市主催の研修会にも積極的に参加している。毎年介護相談員の受け入れも行っている。地域包括支援センターの職員とも連携が図れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マネージャーを中心に身体拘束について定期的に勉強会があり、具体的な行為を正しく理解できるよう学んでおり、全職員が身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。グループホーム内での勉強会も実施している。	定期的に勉強会を身体拘束マネージャーの基に実施している。具体的な事例検討などで職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による拘束について、日々確認し配慮している。日中の玄関の施錠はせず、外出しそうな様子を察知したら、気分転換を図ったり、職員間の連携で安全な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部、外部研修に参加し、全職員が虐待について学ぶ機会を持つように努めている。また、メンタルヘルス検診や有給休暇など職員のメンタルヘルスカをを行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	愛と結の街グループ内の全体研修の企画があり、研修などで学んだ事を、共有できるよう伝達の間を設けたり、全員が資料に目を通すようにすることで、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前には、ご家族、又はご利用者を含めて施設内や雰囲気を見学して頂き、契約時・解約・改定時には十分な説明を行い利用者や家族の不安や思いを受け止めながら、理解・納得が得られるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に2回の家族会を開催し、ご家族同士の意見交換、主治医・管理者による現状報告並びに不安や要望に答える場として設け、ご家族の声を運営に反映させている。意見箱の設置や日ごろのコミュニケーションにて意見交換できるようにしている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き、家族からは面会や家族会・アンケート・電話・運営推進会議などが意見を聞く良い機会となっている。毎月の便りで近況報告を送付している。意見箱も設置している。家族から「職員が忙しそうに見える」という意見に、職員で話し合い、声かけや話しやすい雰囲気作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月職員の話し合いの場を設けそこで出た意見や提案を運営に反映させている。また、個別面接で出た要望を聞き、働きやすい環境作りにも努めている。	管理者は申し送りや職員会議・ユニット会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。出された提案で福祉用具のスライディングボード等を購入し、朝礼後に勉強会を行い、移乗の改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に3回もしくは、必要に応じて面談を行い、個々が掲げる目標の達成状況を把握し、意欲・向上心を持って働ける職場作りに努めている。また個々のワークライフバランスを保つ為に有給、夏冬休やリフレッシュ休暇が取りやすい職場環境作りが出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力・勤務年数に応じた研修に参加出来る様に勤務の調整を行いスキルアップを目指している。また、研修で学んだ事を職員全員が把握出来る様に勉強会等を開催し情報の共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加しており、同業者と交流する機会を作っている。また地域のグループホームとの情報交換を行うことでサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や居宅、今まで利用していた事業所から得た情報を元に、ケアプランを立て、介護者が変わっても利用者が安心して安全に暮らせるようにご家族と一緒に本人の安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に家族とのカンファレンスを行い家族の意向・要望・不安を聞き、ご利用者を第一に考え職員と家族で情報交換・意見交換を行いながら信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始時は、情報収集を行い、暫定プランを作成し、入居時にカンファレンスを開催しケアプランに同意してもらっている。初期の見直しは3週間、次は3ヶ月後、そして6ヶ月毎だが、状況の変化があればその時点で臨機応変に対応をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活においてグループホームの理念に沿って、ご利用者と共に過ごし支え合う関係に努めている。たとえば月に2回野菜販売を行うなど、本人の得意分野を発揮し一緒に喜び合える関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当スタッフが手書きのメッセージカードにて本人の様子や近況報告、行事の案内をお伝えしている。また、面会時にもご家族との情報交換を行い信頼関係を深める事が出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで使用していた馴染みの家具や食器を使用する事で、安心出来る空間が作り出せている。また、ご家族や大切な人といった馴染みの方との外出・外泊が安心安全に行える様に双方の不安軽減に努め支援している。	親戚や友人・知人の面会が多く、一緒にお茶を飲んだりしている。希望で馴染みの店での買い物やユニット間の交流など継続的關係が途切れないよう支援している。電話や手紙の取次ぎなども行っている。家族の協力で墓参・理美容院利用などの際にも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、相性も見ながら日常の活動に取り組んだり、職員も交えて会話を楽しんだりと利用者の個性を活かした活動を取り入れ、生きがいや思いやりを持ちながらお互いを支え合えるよう支援する事ができている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用契約が終了しても、入院されている場合はご家族へ了承を得て面会へ行かせてもらい、ご家族から要望がある際にはその都度相談や支援を行いながら関係性が維持できるように努める事ができている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者と日々関わりの中で、会話や表情から気持ちを汲み取り、本人の思いや意向に沿った支援を行っている。また、希望や意向の把握が難しい方に対してはご家族からの情報や思いを聞きながら支援するよう取り組んでいる。	日々の関わりの中で、希望を聞いたり言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。市相談員の助言も参考にしている。困難な場合は家族や関係者からも情報を得、利用者の視点に立って職員で話し合い、利用者本位の支援に結びつくよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報や、本人との関わり・ご家族から情報を提供していただくことで、生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、これまでと変わりなく安心した日々を過ごして頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や担当の職員発信にて気を付けて欲しい事等を毎月ケースカンファレンスでも話し合うので情報を共有し、利用者一人一人の現状を把握することができている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフにて3ヶ月毎にモニタリングを実施し、本人・家族・必要な関係者と情報や意見の交換を行っている。また、毎月のケースカンファレンスで話し合ったそれぞれの意向等も取り入れながら現状に沿った介護計画を作成することができている。	本人や家族の意向を確認し、主治医の意見も踏まえた担当者会議で、個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化・気づきを個別記録に残すことで情報を共有でき、ケアの工夫に活かす事ができている。また、ケアの実践と結果を職員間で話し合い評価することで介護計画の見直しにも活かすことができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族より要望があった際には、その時の状況で出来る限りニーズに対し、柔軟に取り組み、満足して頂けるように取り組むことができている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、個々の能力に合った支援を活用する事で心身の力を発揮し地域の方とも楽しく過ごすことができている。 (女性学級・おばらパークへの参加やボランティア・慰問の受け入れ等)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人または家族の希望にてかかりつけ医を決定して頂いている。殆どの方が系列病院の医師を主治医としている為、医師と看護師・介護職員との連携が図れている。必要時主治医へ状態報告や相談をすることで適切な医療を受けられるように支援することができている。	受診は、本人や家族の希望で、系列医療機関が主治医となっている。定期的な往診や職員看護師の健康管理や訪問看護ステーションとの連携が図られ、緊急時の対応など、適切な医療が受けられるよう支援している。受診結果は家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、いつもと違う様子がみられた際は、バイタル測定など行い、看護師へ相談、報告し、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。夜間は訪問看護と連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	搬送先の病院等については、カンファレンス時に家族へ確認している。毎月、サマリーの見直しを行い、入院する場合に備えている。入院中も病院関係者と情報交換を行い、早期に退院できるように対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けたケアの充実を目標に掲げ、家族会やカンファレンスを通して家族と話し合っている。終末期の方には、改めてグループホームでできること・できないことを説明、周知し家族と話し合っている。本人・家族が望むチーム支援ができるように取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、同意書を貰っている。状況変化に伴い本人や家族と話し合い、方向性を共有できるよう取り組んでいる。看取り希望の場合は、事業所でできる事やできないことを説明し、随時意思を確認しながら取り組んでいる。看取りの事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修を年2回実施している。AEDの扱い方も習得できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練（消火・通報・避難）を行っている。避難経路、避難場所の確認を行うと共に地域の方々にも参加してもらい、地域との協力体制を築くことができている。	消防署立会いのもとで年1回、自主訓練を年1回、昼夜間想定避難訓練を実施している。隣接する同法人の関連施設とは協力体制もできている。スプリンクラーや緊急通報装置等も整備しており、地域住民の参加があり、協力関係ができている。水・米・カレーなど3日分の備蓄もある。地域全体での避難訓練を検討中である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や個人情報保護の研修に参加している。利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を常に心掛けている。	外部研修に参加し、職員会議でも勉強会を行い職員の資質向上に取り組んでいる。名前は「さん」付けで呼び、入室時や入浴・トイレ誘導などでは誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者とコミュニケーションを図り、本人が思いや希望を表出でき、自己決定できるような言葉かけなど行い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調に合わせて、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った支援を行い、楽しく安全で過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝の更衣や外出時には、利用者が服を選択できるように声掛けし、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみなものになるよう本人や家族などから好きな食べ物など把握し、味付けや見た目などにも気を配っている。利用者のできる範囲で職員と一緒に準備や片付けを手伝ってもらっている。	栄養士のアドバイスで、菜園の野菜や旬の食材で嗜好やアレルギーに配慮し、個々に応じた食事形態を工夫している。盛り付けや片づけを職員と一緒にしたりもしている。一人ひとりの誕生日のお祝いや月2回の刺身食・外食・季節の行事食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事状況、食事・水分摂取量を毎食把握し家族とも協力しながら必要な栄養・水分摂取ができるよう支援している。食事時の環境や食器、食事形態にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアの声掛けや介助を行い、介助を要する方にはその人に合わせた器具を使用し口腔内の清潔に努めている。希望や異常がある場合は他職種とも早めに連携し対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの排泄ができるよう声掛けや介助を行っている。本人の身体状況、排泄状況に合わせたトイレ案内や、パット、オムツを使用している。また排泄での皮膚トラブルにも注意している。	状況のパターンやリズムの把握に努めている。必要に応じて声かけを行い、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。排泄用品は個々人に合わせて対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や水分摂取を促す等日頃から便秘予防に努めている。排便状況把握し内服薬の調整を行い、排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ゆっくりと入浴を楽しめるよう本人のタイミングや希望に合わせている。体調不良や外出で入浴できない日が続かないよう調整している。入浴が難しい方には家族の協力もいただきながら実施している。	入浴は基本的に週3回で午後に行っている。体調や希望に合わせて柔軟に対応している。シャンプー・リンスは利用者の好みの物である。入浴を拒む利用者には声かけや時間調整・家族の協力を得たりして、職員間で連携して入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活パターンや状況に合わせて寝具・室温・体位を調整し休息や安眠がとれるよう、又日中に活動量を増やす事で夜間により良い睡眠がとれるように支援している。必要と思われた時は、主治医にも相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は各利用者で時間毎に準備し必ず服薬後に内服チェック表で確認し配薬ミスのないように務めている。看護・介護全スタッフで情報共有し服薬と症状の変化の確認に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴から出来る事、得意な事、役割を見つけ、皿洗い・掃除・洗濯物干し等本人の体調や気分に合わせて一緒に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気分や体調をみながら上下階の行き来や施設周辺を散歩、老健でのレクへ参加される。季節を感じたり、気分転換を図る為に家族へも参加協力をお願いし、1回/月外出レクを計画・実施し外出や外部との交流を楽しまれている。	日常的には園内や周辺の散歩に出かけている。2ユニット間の行き来や隣接する施設でのレクレーション活動に参加したりしている。年間計画を立て、初詣や地域行事・花見・ショッピングモール・外食にも出かけている。外部との交流を楽しめるように、月1回は外出レクレーションを実施している。家族の参加もある。家族の協力で外出や外食・理美容院・墓参などにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での金銭の預かりは行っていない。本人・家族の了承を得たうえで自己管理して頂いている。必要がある時は家族へ相談、協力依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご利用者本人が強く希望される時は、自由に電話が掛けられるように又は職員が連絡の中継ぎをするように支援している。手紙も送れる支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、ホールの壁面を使い季節に合った物などを飾ったり、スペースに季節の花を活けたりすることで、日々の生活の中において季節感を味わって頂くことを大切にしている。	共用の空間は広々として、リビングから中庭に直接出られる。採光や換気・温度・湿度に配慮し開放的である。生活感や季節感を大事にした飾りつけや花が活けてある。畳の部屋があり、ゆったりしたソファもあり、好きな場所で居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの中にソファや畳の部屋もあり座って寛ぐスペースを設けている。また居室は個室となっておりテレビを持参されて好きなテレビを視聴されたり、昼寝をされたりと個々の時間を過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力して頂き、使い慣れた物や懐かしい写真などを飾ることでご利用者が心地よいと感じるような空間作りに努めている。	ベッドやクローゼット・エアコンが備え付けである。テレビや鏡台・椅子・加湿器・ラジオ・机・ソファ・写真など、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の出来ることを把握して見守りつつ、残存機能を活かし維持できるように安全に自立した生活ができる環境づくりに努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない